

ビジョン連携推進会議 第四分科会第 1 回目 開催概要

- 1 日時 平成 25 年 10 月 10 日 (木)
- 2 テーマ 「スマートシティ」
- 3 臨時構成員 三井不動産株式会社
- 4 要旨
 - (1) 「柏の葉スマートシティ」の概要
 - 「柏の葉キャンパス」は、千葉県柏市北部地区に位置し、千葉県が施行した土地区画整理事業区域において、公民学の連携によってまちづくりが進められてきた。
 - 柏の葉エリアにおける公民学連携の拠点として「柏の葉アーバンデザインセンター」(UDCK)が設けられ、まちづくりに係る様々な事業の企画、調整、連携を担っている。
 - 柏の葉では、これまでのまちづくりのプロセスをもとに、「環境共生」、「健康長寿」、「新産業創造」の 3 つの統合モデルを「スマートシティ」と位置付けた「柏の葉スマートシティプロジェクト」を推進している。
 - (2) AEMS(エリアエネルギー管理システム)の内容と効果
 - 平成 26 (2014) 年に竣工する街区では、エリアエネルギー管理システム(AEMS)を新たに構築して、地域全体のエネルギー需給状況を一元管理する。
 - 上記の街区では、さらに、自然エネルギー及び未利用エネルギーの活用、パッシブデザインを取り入れた建築等とあわせて、エネルギーの効率運用を図り、CO₂ 排出量を大幅に削減する。
 - AEMS はエリア拡張と機能の充実を図りながら、将来的には柏の葉全域で「スマートグリッド」機能を備えたネットワークを構築し、再生可能エネルギーを中心としたエネルギーマネジメントを行っていく。
 - (3) これまでの成果やまちびらき後に生じた課題と解決策
 - 柏の葉は、東京大学及び千葉大学が立地し、大学からの提唱により、UDCK の設置など、公民学連携による課題解決のプラットフォームが構築されてきた。
 - 柏の葉で不動産開発を行っている三井不動産は、UDCK の運営や課題解決に向けた事業を推進するなど、開発後のエリアマネジメントにも関わっている。
 - エネルギーマネジメントについては、エネルギー管理システムとあわせて、コミュニティが課題を共有して取り組むことが重要である。
 - 柏の葉では、居住者のコミュニティへの参加が多く、サークルなど同じ目的のコミュニティへの参加が地域のコミュニティの形成につながっている。
 - (4) スマートシティの他地域での展開の条件、可能性等
 - 既存市街地のスマートシティ化については各構成員とも関心が高く、個別の建物のスマート化、再開発を契機とすることなどの手法について意見交換が行われた。
 - スマートシティ化については、環境やコミュニティの素養のあるまちであることが条件であるという意見や三井不動産のようにまちをつなぐ役割を担う人が重要であるなどの意見があった。
 - スマートシティの一番重要な要素として、歩ける範囲 (20 分程度) に生活レベルに必要な機能が備わっていることが挙げられた。
 - 柏の葉では大学が重要な役割を担っているが、多摩地域についてみると、大学が市街地の中心にないことなどが、条件として不利ではないかという意見があった。